



あいさつ

同窓会長 吉原 五鈴子

例年になく寒暖定まらない春を迎えております。会員の皆様には益々ご健にてご活躍のこととお喜び申し上げます。「同窓会だより第14号」をお届け出来ますことを感謝します。

皆様方の厚いご理解ご支援を頂き本年度同窓会事業も恙なく終えることができました。

去る2月末の入会式では、全日制・定時制合わせて187名の新入会員をお迎えし、同窓会も一段と若返った感が致します。

昨年秋から開始致しました「本校創立100周年記念事業展開に伴う募金活動」には、多大なご理解を頂き、ありがとうございます。徐々に募金額も伸びて参りましたが、同窓会館全面改装を含む総額3,000万円に及ぶ目標額には遠く及ばない現状であります。既にご送付致しました趣意書の通り、事業展開につきましてはご理解頂いておると存じますが、母校発展のため、再度お手許の振込依頼をご確認され、ご協力下さいますようお願い申し上げます。既に多額をご寄付下さった同窓生もおられますが、中にはお忘れの方も有るか存じます。ぜひお知り合いの同窓生にお声を掛けて下さいますようお願い致します。

昨年12月末、第3回役員会の承認を得て27年度奨学金授与式で7名の生徒さんに奨学金を授与致しました。これは、創立50周年の記念事業の一環として、同窓生のご寄付を基に創設されたものです。少額ではありますが向学の志厚い生徒さんに心からのエールを送ると共に、100周年時には更なる増額を期待しているところです。

さて、平成28年度同窓会総会・懇親会は、当番幹事を昭和48年度と平成5年度卒業生にお願いし、両宮美鈴実行委員長のもと素早い動きで事業推進を頂いております。必ずや素晴らしい会になるかと存じます。ぜひ当日には（H28年4月29日）お誘い合わせ多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。挨拶と致します。

同窓会への感謝

学校長 秋山 宏子



いつになく暖かい冬となり、穏やかな新年を迎えることができました。同窓会の皆様方には、絶えず温かいご理解とご援助をいただき感謝しております。昨年秋から、創立100周年記念事業・募金活動も動き出しました。一世紀近い歴史ある本校の同窓会の存在は大きく、学校といたしましても感謝の気持ちは言葉では言い尽くせません。

今年度の学校パンフレットの一部分に本校の歴史を特集しておりますが、その中に生徒たちの一言が掲載されています。「伝統校に入学できて良かった」「歴史ある校風は学校の大きな魅力です」「これからもこの伝統を引き継いでいこう」など、生徒にとってもこの伝統は誇りとなっていることがわかります。

入学式・卒業式などの式典だけでなく、同窓会総会における同窓生との交流や奨学金事業など、これまで続けてきた活動がその成果となって現れていると感じます。創立100周年記念式典は平成29年10月7日で決定し、記念事業としては同窓会館の改修、記念誌発行等で計画を進めております。100年の節目を迎えるにあたり、これまでの長い歴史を回顧するとともに、これからの未来に向けて新たな第一歩を踏み出すことができるよう願っています。

この春、全日制・定時制で合計187名が無事卒業を迎え、同窓生の仲間入りをさせていただきました。同窓生の皆様には、今後も卒業生・在校生への変わらぬご支援をお願いし、挨拶といたします。

同窓会研修旅行記

10月23日、今年も創立記念日の恒例行事である山梨高校同窓会研修旅行が35名の参加者のもと開催されました。

当日は少々肌寒さも感じられた朝でしたが久しぶりの出会いにバスの中は温かな空気に包まれ、あっという間に高校時代に戻ったように華やかな雰囲気となり、吉原会長の挨拶から朝のセレモニーが行われました。バスの中では、早速あちらこちらで話の花が咲き研修第1部がスタートしました。

最初に訪れたのは、根津美術館。創立者根津嘉一郎は「鉄道王」として知られ、また、多くの偉業を遂げられた方として、山梨が誇る実業家です。今回は茶道具を中心とした展示でしたがその中には国宝級の物も多く、その一つひとつの素晴らしさに時を忘れ見入り、改めて根津嘉一郎の偉大さに思いを馳せました。

その後、目黒雅叙園内の「百段階段」に展示された假屋崎吾吾の華道展見学。全てが目を見張るようなダイナミックな生け花に唯々感動の一言でした。目黒雅叙園の百段階段は東京都指定有形文化財であることも改めて知りました。

最後の浅草寺・仲見世散策。人の多さと外国人に占拠されたような人ごみに「お上りさん」を自覚したひとときでした。

同窓会研修旅行は、同窓生同士の親睦を図り、また、多くの見聞を広める上で素晴らしいものであることを改めて感じた一日でした。



根津美術館前にて

奨学金授与式

山梨高校創立50周年記念事業として発足した在校生への奨学金の授与式が昨年12月9日に行われました。

奨学金を受けたのは、各学年2名と定時制1名。学業・人物共に優れ、さらに積極的に部活動に取り組み他の模範となる生徒たちが学校からの推薦を受け、同窓会役員会で承認された生徒です。

授与式は、同窓会役員・校長先生・教頭先生をはじめ先生方、そして多くの保護者が参列しました。

吉原同窓会長から、温かな激励と今後の活躍を期待する言葉が送られ、秋山校長からは「選ばれた者として誇りを持ち、感謝を忘れず山梨高校生として、更なる努力を重ねるよう」とのエールが送られました。最後に、奨学生証書と奨学金が授与された生徒の代表からのお礼と誓いの言葉で式が終了しました。



同窓会入会式

春の足音が一步一步近づくと2月29日、平成27年度卒業生の同窓会入会式が行われ187名の同窓生が誕生しました。平成29年10月には山梨高校が創立100周年を迎えるに当たり、創立当時の様子や今日までの歩みが吉原同窓会長から話されました。さらに、同窓会の活動は同窓生相互の交流と親睦を図り母校の発展を目的に活動していることも話され「新入会員の皆様は山梨高校で学んだことに自信と誇りを持ち『至誠無息』の校訓を胸に社会で活躍してください。また、若い力を同窓会活動でも発揮してほしい」との歓迎の言葉が送られ、各クラスから2名同窓会クラス理事が委嘱され、同窓会より記念品が贈呈されました。

新入会員を代表して矢崎真由さんから「山梨高校で学んだことに誇りと向上心を持ち社会に貢献していきたい」とのお礼の言葉がありました。新入会員の今後の活躍とご多幸を祈念致します。

卒業証書授与式

3月1日、平成27年度山梨県立山梨高等学校卒業証書授与式が挙行されました。全日制184名・定時制3名の卒業生と在校生・PTAに加えて、来賓の一員として同窓会役員も参列致しました。

式は厳粛の中にも和やかな雰囲気の中で進行しました。秋山校長は、式辞の中で「至誠無息の校訓のもと国際社会の中にも恥ずかしくない人間となるべく自己を鍛え精一杯努力し、優しさたくましさ、そして自分に何が出来るか考える力を身につけられたことを称えます」との言葉が添えられました。

吉原同窓会長からは「投票年齢が18才となることから情報をしっかり収集し権利を行使してほしい。私達も手本を示したい」とのことば。さらに、大村智先生の「思いやりの心を持つこと、人を思いやるためには想像力をつけ好奇心を持ち考えることである。そのためには沢山本を読んでほしい」とのはなむけの言葉が贈られました。

卒業式の最後のセレモニーである生徒たちの歌声は惜別の思いが込められ感激で胸の詰まる思いでした。

諸先輩の足跡に負けない立派な社会の一員として成長されるとともに同窓会活動にも専らして頂けることを確信しながら式場を後にしました。



東京支部活動の歩み



1冊のノート

東京支部長・副会長 両宮道子

私の手元に深緑色の分厚いノートがある。東京支部の代々支部長宅に大事に保管されてきたノート。表紙には「梨窓会誌昭和40年」と書かれている。52年間保存されてきた大切なノートである。

初めのページを開くと、昭和40年5月1日第12回梨窓会東京横浜支部総会とある。出席者60名。戦後12回（戦前に4回実施）会の流れ出席者の名前・感想等が古屋三芳さん（昭和2年卒）の手で綴られている。当時は、女学校卒の方が東京支部会の労を担っていたことがわかる。

昭和44年には、本部と合同で同窓会総会を東京で行ったとある。山梨からバス5台で197名・支部から169名・合計366名の参加で、山梨日日新聞に写真入りで報道されている。その新聞記事もノートに貼ってある。

平成に入ると、男子の卒業生が加わり活躍している。特に昭和28年度卒のメンバーは長くこの会に出席し、会を盛り立てて下さった。当番幹事を60才と50才の方が担当としたことも良かったのだろう。みんなで支え合い東京支部を存続させてきたことがわかる。

このノートの中で、はじめから終わりまで名前が出てくるのが昭和8年卒の天野アマ子さんである。天野さんは長い間、物心両面でこの会を支えて下さった。90才近くになってもほとんど毎回出席された。天野さんは茶目っ気もある方で、あいさつをお願いすると「息子に黙ってひとり電車に乗って来ちゃった。息子に言う心配して反対するから」とニコニコしながら話して下さった。長年の活躍に対して、大好きな猫が出てくる絵本と一緒に手書きの感謝状を差し上げた。

このノートには、山梨高等女学校・山梨高等学校を卒業し、同窓会を育てた素晴らしい東京支部同窓生の貴重な歩みが載っている。同窓会を育てて下さりありがとう。感謝いっぱいである。



昭和44年11月山梨日日新聞掲載記事

同窓生の活躍紹介



岩窪征子

(いわくぼせいこ)プロフィール

- 牧丘町倉科に在住
- 昭和30年度山梨高校卒業
- 平成元年歌会「ひこばえ」入会
- 現在「日本歌人クラブ」「朝霧社」会員として活躍中

歌集「琵琶城趾」を出版された岩窪征子さんを訪ねて

この1月、長年の自作短歌をまとめ出版された同窓生 岩窪征子さんを編集委員がお訪ねしインタビューさせていただきました。

歌集「琵琶城趾」を開くと先ずこんな歌に出会います。

- 草取りに昨日も励みておりしとどかぬ母の手足をさする
- 消毒のエンジン音を潜り抜け初燕飛ぶ夜明けの庭に
- 冷えし手を湯飲み茶碗に温めて梅雨降る畑に摘粒をする
- 激痛に声を上げつつ作歌せし子規に学ばん痛み持つ身は

「私の歌は日常生活を詠んだ平易なものばかり」と話されながら30年近く毎月10首の投稿を続けられ、既に3000首余り。選歌して約300首を歌集に。表題「琵琶城趾」は、生家あるふるさと「琵琶窪」にちなんで名付けられたとか。

昨27年には、NHK「全国短歌大会」に入選

○ 復員の父を「とうさん」と呼ばざりき幼き我が反骨心はや

ご自身が生まれる前に出征し、戦後3年たって復員された父親をどうしても「とうさん」と呼べなかった自分を詠っています。

また昨秋には、山梨市の短歌大会で特選に輝かれました。

○ 葡萄のあくに黒く染みたる親指は母に似てると思いつつ洗う

岩窪さんは農業一筋に生きられながら、出会った短歌の世界に生甲斐を見出し、現在もご家族の温かいご支援の中「短歌は私の生きる支え、命続くかぎり詠み続けます。」と力強くお話し下さいました。お連れ合いの喜寿を寿がれた歌

○ 八人兄弟の長たる夫や「あんちゃん」と今に呼ばれて喜寿を迎える

しみじみ拝読しました。同窓生のお一人として、将に「継続は力なり」と実感しつつ、「どうかお元気でいつまでもご活躍を」とお祈りインタビューを終えました。

学校だより・学校ニュース



団結力が私をつくり、成長させてくれた

体操部 2年4組 三森梨央

私は日々、部活動と勉強の両立に励んでいます。の中で、「団結」が私をつくり、成長させてくれていると実感しています。私は体操部に所属しています。今まで団体競技に力を入れて、チームで良い成績を収めることを目標に努力してきました。団体では、全員が演技しやすい環境作りや体調管理の難しさという問題に直面しましたが、チームの助けや協力があった乗り越えられた困難は、数多くあります。団結力が高まったことにより、インターハイ出場が果たせたのだと思います。

また、勉強でも「団結」は欠かせません。一人で勉強していても、理解できない部分や納得のいかない部分があると、そこで思考が止まってしまうこともあります。そんな時は、疑問点を先生や友達に聞いて解決するようにしています。互いに教え合ったり、先生に教えていただいたりすることで、協力と団結が生まれ、やる気が出て、学習能力の向上につながっています。



「団結」なしで成功することは不可能です。これまで学校生活や部活動を通して、多くの人と関わり協力するなかで成長していくことを知りました。私がここまで成長できたのは、両親や先生方、仲間の応援と支えがあったからだと感じ、感謝しています。これからも感謝の気持ちや初心を忘れず、さまざまな人と「団結」しながら、失敗を恐れず何事にも挑戦し、未来に向かって進み続けていきたいと強く感じています。



登山と美術、ふたつを兼部して

美術部・登山部 2年4組 小澤 紘人

私は二つのことを並行して行うことのできない要領の悪い人間でした。大抵どちらかに集中し、どちらかが時間切れになるというパターンを中学時代まで繰り返していました。それは勉強と部活動であったり、趣味と人間関係であったりです。それなので、高校に入り登山部と美術部を兼部することは自分にとって大きな挑戦でした。

この2つの部を選んだのは、幼い頃アトリエに通っていたことや、自然に興味を抱いていたことにありますが、やはり一番は私の中に、新しく、より多くのことを体験したいという思いがあったからだと思います。

気持ちだけは十分にありましたが、やはり両立は難しいものでした。2つの部活動に均等に参加することはできず、時期によっては一方に片寄ってしまったこともありましたが、今は兼部してよかったと思っています。それは、友人と励まし合いながらコースを踏破する登山と、一人キャンパスにじっと向かう美術部とは全く違う体験ができたからです。登山部は集団で行動するので、必ず周りに人がいて、常にかえさせられます。それに対し、美術部では、時に構図を考え、時に無心に、一人集中してキャンパスに向かいます。さらに違う部の違う人たちから、異なる価値観を学びました。登山部と美術部の仲間に、私は心から感謝しています。



「うろこの壁」小澤紘人画
山梨県高等学校芸術文化祭優秀賞

山梨高校同窓会 総会・懇親会

平成28年度 4月29日(祝) 午前10:00~

会場：山梨高等学校体育館
並に 梨窓文化創造館
当番幹事：昭和48年度・平成5年度卒業生

会員券：3,000円
同窓会長：吉原五鈴子
実行委員長：両宮美鈴



同窓生の方でご活躍している方がおりましたら事務局までお知らせ下さい。ご紹介させていただきたいと思ひます。

山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局

〒405-0018 山梨県山梨市上神内川1194 ☎tel:0553-22-1621 ㊟fax:0553-22-1623
www.yamanashi.kai.ed.jp